

非結球あぶらな科葉菜類

農薬取締法上、「なばな類」は「非結球あぶらな科葉菜類」に含まれる。ただし、「かぶ」、「だいこん」等は葉を食用にする場合でも「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれず、「根菜類」に含まれる。「ブロッコリー」「カリフラワー」等は「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれず、「はなやさい類」に含まれる。

この項目では「非結球あぶらな科葉菜類」の作物群に対する登録内容のみを記載している。個別作物に対する登録内容については当該作物のページを参照すること。

白斑病

留意事項

- 1 気温が低く、湿潤な条件が続く時期に発生しやすい。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ベンレート水和剤](#) < 1 >

【非結球あぶらな科葉菜類（除みずな、チンゲンサイ） 4000倍 21日／1回】

白さび病

留意事項

- 1 QoI剤<< 1 1 >>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 ほ場の排水をよくする。
- 4 密植を避け、通風をよくする。
- 5 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 6 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。

- ・ [ランマンフロアブル](#) < 2 1 >

【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類） 2000倍 3日／3回】

- ・ [ライメイフロアブル](#) < 2 1 > 【2000～4000倍 3日／3回】

- 7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >>

【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、チンゲンサイ、タアサイ、みずな）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2000倍 7日/2回】

- ・ [ピシロックフロアブル](#) <U17> 【1000倍 前日/3回】

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

- 1 降雨が多く、気温が高い時期に発生が多い。
- 2 進展がきわめて速いため、発生初期の抜き取りが重要である。
- 3 QoI剤<11>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 わら、またはポリフィルムなどでマルチングする。
- 2 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) <1>
 - 【非結球あぶらな科葉菜類（除みずな、チンゲンサイ） 4000倍 21日/1回】
 - ・ [スクレアフロアブル](#) <11> 【2000倍 前日/3回】

根こぶ病

留意事項

- 1 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
- 4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（XⅢ土壌消毒 参照）
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <->
 - 【非結球あぶらな科葉菜類（非結球メキャベツ、こまつな、非結球はくさい、なばな類、チンゲンサイ、みずなを除く） 30kg/10a
所定量を均一に散布して土壌と混和 は種14日前/1回】
- 5 は種前または定植前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ネビジン粉剤](#) <36>
 - 【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類） 20~30kg/10a 全面土壌混和
は種または定植前/1回】 または
 - 【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類） 20kg/10a 作条土壌混和
は種または定植前/1回】
 - ・ [オラクル顆粒水和剤](#) <21>
 - 【200~300g/10a 全面散布後土壌混和（希釈水量100L/10a）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

は種前または定植前／2回】

【200～500倍 かん注（500ml／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊
（30×60cm、使用土壌約3～4L） 定植前／1回】

・ [フロンサイド粉剤](#) < 2 9 >

【非結球あぶらな科葉菜類（除ケール、こまつな、みずな、のざわな、なばな類）
30～40kg／10a 全面土壌混和 は種または定植前／1回】

6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

アブラムシ類

留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 少雨のときに多発しやすい。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 は種時に下記の薬剤を施用する。

・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A >

【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ） 6kg／10a まき溝土壌混和
は種時／1回】

・ [モスピラン粒剤](#) < 4 A >

【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ） 3kg／10a まき溝土壌混和
は種時／1回】

- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [トランスフォームフロアブル](#) < 4 C > 【2000倍 前日／3回】

・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【4000倍 前日／2回】

・ [ベリマークSC](#) < 2 8 >

【非結球あぶらな科葉菜類（除ケール） 4000倍 かん注（0.2L／㎡） 7日／1回】

・ [オルトラン水和剤](#) < 1 B >

【非結球あぶらな科葉菜類（除ケール、からしな、ルッコラ、四川搾菜（茎葉）、
畑わさび、畑わさび（葉）） 1500倍 21日／1回】

コナガ

留意事項

- 1 葉裏に網のような繭をつくって蛹になる。
- 2 春～初夏、秋の発生が多い。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2 は種時に下記の薬剤を使用する。

・ [モスピラン粒剤](#) <4 A>

【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ） 3kg/10a まき溝土壌混和
は種時/1回】

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [アファーム乳剤](#) <6>

【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな）
1000～2000倍 7日/3回】

・ [ディアナSC](#) <5>

【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、チンゲンサイ、なばな類） 2500～5000倍
前日/2回】

・ [プレオフロアブル](#) <UN>

【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、なばな類） 1000倍 7日/2回】

・ [マッチ乳剤](#) <15> 【2000倍 3日/3回】

・ [ヨーバルフロアブル](#) <28>

【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな） 5000倍 前日/2回】

・ **BT剤** <11A>（IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

留意事項

1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [アファーム乳剤](#) <6>

【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな）
1000～2000倍 7日/3回】

・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5>

【非結球あぶらな科葉菜類（除みずな、非結球はくさい） 2500～5000倍
14日/2回】

ネキリムシ類

留意事項

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 根の株元をかみ切り、株はそこから折れて枯死する。

防除方法

- 1 ほ場の中および周辺の除草を徹底する。
- 2 は種前～定植時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) <1 B>
 - 【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、ケール、ひろしまな）
6kg/10a 全面土壌混和 は種時または定植時/1回】
 - ・ [フォース粒剤 劇](#) <3 A>
 - 【非結球あぶらな科葉菜類（除からしな） 4kg/10a 全面土壌混和 は種前/1回】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフーム乳剤](#) <6>
 - 【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな）
ヨトウムシ・ハスモンヨトウ 1000～2000倍 7日/3回】
 - ・ [ディアナSC](#) <5>
 - 【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、チンゲンサイ、なばな類） ハスモンヨトウ
2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN>
 - 【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、なばな類） ハスモンヨトウ・
シロイチモジヨトウ 1000倍 7日/2回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) <2 2 B> 【ハスモンヨトウ 2000倍 前日/3回】
 - ・ [スカウトフロアブル 劇](#) <3 A>
 - 【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ） ヨトウムシ 2000倍 7日/2回】
 - ・ **BT剤** <1 1 A>（Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

アオムシ

留意事項

- 注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
- 注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 幼虫による被害は春と秋に多い。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) < 6 >
【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな）
1000～2000倍 7日／3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A >
【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、非結球はくさい、みずな、なばな類）
2000倍 前日／3回】
 - ・ [ベリマークSC](#) < 2 8 >
【非結球あぶらな科葉菜類（除ケール） 4000倍 かん注（0.2L／㎡） 7日／1回】
 - ・ [マッチ乳剤](#) < 1 5 > 【2000倍 3日／3回】
 - ・ [BT剤](#) < 1 1 A >（IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）

キスジノミハムシ

留意事項

- 1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。

防除方法

- 1 シルバーマルチを利用する。
- 2 は種前～は種時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) < 1 B >
【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、ケール、ひろしまな）
6kg／10a 全面土壌混和 は種時／1回】
 - ・ [フォース粒剤 劇](#) < 3 A >
【非結球あぶらな科葉菜類（除からしな） 4kg／10a 全面土壌混和 は種前／1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) < 4 A >
【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ、畑わさび） 2000倍 3日／2回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) < 2 2 B > 【1000倍 前日／3回】
 - ・ [アニキ乳剤](#) < 6 > 【1000～2000倍 前日／3回】

ハモグリバエ類

防除方法

- 注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
- 注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [カスケード乳剤](#) <15>
【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類） マメハモグリバエ 2000倍 7日／2回】
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5>
【非結球あぶらな科葉菜類（除みずな、非結球はくさい） 2500～5000倍
14日／2回】
 - ・ [アニキ乳剤](#) <6> 【1000～2000倍 前日／3回】

ケラ

防除方法

- 1 は種時に下記の薬剤を使用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) <1B>
【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、ケール、ひろしまな）
6kg／10a 全面土壌混和 は種時／1回】

カブラハバチ

防除方法

- 1 密植を避け、通風をよくする。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤 劇](#) <4A>
【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ） 4000倍 7日／1回】

ナメクジ類

留意事項

- 1 被害の周りには移動した痕跡として粘液が付着する。
- 2 スラゴは株元に散布し、植物体上にかからないように注意する。
- 3 ナメクリン3は、ほ場全体に処理を行う場合、生長点付近に薬剤が入り込まないように2葉展開期までに散布を終えるようにする。また、収穫3日前までに使用する場合は、外周部からの侵入を防ぐことを目的に最前列の株元に散布する。その際は、茎葉の隙間に薬剤が入らないよう注意する。

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スラゴ](#) <—>

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

—非結球あぶらな科葉菜類—

【ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等
ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害
を受けた場所または株元に配置 1～5g/m² 発生時／—】

・ [ナメクリーン3](#) <—> 【1～3kg/10a 株元散布 3日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。